

任地訪問(授業研究会) in UGANDA

191 ウガンダ 小学校教諭 河地 洋明

ウガンダでは小学校に入る隊員(24人)が中心となって PRIMARY 研究部を立ち上げました。活動の内容は以下の3点

- 1: お互いの任地を訪問し、授業研究会を行う。(カウンターパートを巻き込む)
- 2: 広域研修(アフリカ諸国から参加者を募り授業研究会)を行い、そのよさを知ってもらう。
- 3: アイディア集を作成し、自分たちの活動及び NTC 等に還元する。

1: 任地訪問について

目的: 授業をお互いに見合い、子どもたちにとってさらによりよい授業を創造すること
内容: 1 コマ 45 分の授業を担当者及びカウンターパートが見せ、その後その授業に関する、もしくは、今月のテーマについて参加者で話し合う。

今までの実践

2月『1時間の学習過程の提案(算数・体育)』

テーマ: 買い物ゲームを通して、一人一人の理解度を高める(算数)

運動が得意な子もそうでない子も楽しめるような手立てを考える(体育)

初めての任地訪問での授業研究会。任地は岩山隊員のウガンダ ナマリイリ。校長先生も先生方もとても積極的で、指導案検討および模擬授業も行った。授業者は、岩山隊員が算数を、同じムコノ県で活動を行う、河地が体育を行った。参加者数は、隊員 24 名、CP4 名 PEACE CORP1 名。

写真は障害をもった子が折り返しリレーを楽しんでいる姿。



3月『TT(チームティーチング)の実践』 & 『1時間の学習過程の提案(音楽)』

テーマ: 様々な障害をもった子どもたち 1人1人に適した授業を行うための TT

(障害児学級)

子どもたちが1時間の見通しをもち、楽しく授業に参加できる手立てを考える

(音楽)

3月は現職参加の2人(神奈川からの)による授業。任地2校をバスで移動し、授業研究会を実施した。山田隊員は障害児学級を受け持ち、担任教師との息のあった TT を展開。具体物を取りいれ子どもたちにわかりやすい授業を行っていた。

榊原隊員は、音楽の授業を担当。1時間の始まりに1時間の流れを子どもたちと共有する時間を設けたり、外への移動を取り入れたりして、音楽を外で楽しむ等の授業の工夫を行った。



写真 は、

音楽の授業の中で、体を動かす時間を設け、参加する子どもたちにどんな動作がよいか選んでもらっている場面。

写真 はその後の授業研究会の様子。この日はカウンターパートを呼ぶ月(隔月で実施)だったので、隊員 20 名の他、カウンターパート 6 名、任地教員 16 名の参加があった。



4 月は広域研修の話し合いを行った。

2：広域研修

2008 年 1 月からスタートしたこの分科会。そのステップアップとして、8 月にアフリカ諸国の隊員及びカウンターパートをウガンダに呼び、ともに学び合うことはできないかということで検討してきたのが、広域研修。毎月行ってきた任地訪問での授業研究会はアフリカウガンダの先生方には刺激的な学び合いの場となっている。実際に、リピーターの先生方がたくさん出はじめ、授業を教えるその方法を学び合う時間はとても充実していると参加したウガンダの先生方は言っている。

この広域研修では、現在、8 カ国に申請中で、各事務所の判断で隊員を送るか送らないかが決まってくる。ウガンダ隊員は、準備の段階から参加者の方々と一緒に学び合えるように、アンケートを送ったり、毎月の提出物を促したりと工夫をしている。

以下、資料として広域研修の目的、内容等が載った申請書、広域研修のグランドデザインを添付する。写真は広域へ向けての話し合いの風景。



3：アイデア集の作成

毎月の授業研究には参加者もそれぞれのテーマについて考え、提出物をもって来るようにしている。その資料を集めたものをアイデア集として発行する予定である。

広域研修後には、広域研修に参加した各国の資料もひとつにしてまとめることができるので、アフリカ全土のアイデアが詰まったアイデア集になりそうだ。